

1. 北海道 2. 長野県 3. 静岡県 4. 青森県

1. 乾燥した強い風によって農地の水分が奪われ、農作物が枯れてしまう干害が発生する。

2. 大雨を伴う強風が続くため、河川の氾濫によって農地が浸水する洪水被害が発生する。

3. 急激な気温上昇をもたらし、農作物が乾燥して品質が低下するフェーン現象が発生する。

4. 気温が上がらず日照時間も不足するため、稲などの作物の生育が悪くなる冷害が発生する。

1. 広大な平野を活かして、夏と冬で異なる作物を作る二毛作が全域で普及しており、米の銘柄化は進んでいない。
2. 夏の低温被害である冷害を避けるため、品種改良によって耐冷性と食味を両立させた銘柄米の生産に力を入れている。
3. 冷害対策として、全ての水田を温室のような施設栽培に切り替えることで、高級な銘柄米を安定供給する体制を築いた。
4. 日本海側では「やませ」の影響による干ばつが多いため、干拓地を利用した大規模な灌漑施設による銘柄米作りが行われている。

1. 食料自給率を向上させるため、工場の跡地がすべて大規模な水田や畑として整備された。
2. 産業構造の変化や都市機能の更新に伴い、工場の跡地が別の用途へと転換された。
3. 地域の歴史的な景観を後世に伝えるため、工場の建物が当時の姿のまま永久保存された。
4. 大規模な災害に備えるため、工場跡地のすべての建物が取り壊され、一切の建築が禁止された。

1. 福岡県の福岡市 2. 北海道の札幌市 3. 宮城県の仙台市 4. 広島県の広島市

1. からっ風 2. やませ 3. 季節風 4. フェーン

1. 冬の季節風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、それが奥羽山脈などの山地にぶつかすることで雪を降らせるため、1月の平均気温が氷点下になるなど寒さが厳しい。
2. 冬の季節風が奥羽山脈を越えて乾燥した風として吹き下ろすため、雪はほとんど降らず、1月の降水量は100mm未満と非常に少なくなる。
3. 夏に吹く冷たく湿った「やませ」の影響が冬まで残るため、1年を通じて降水量が多く、1月の平均気温は氷点下にはならないが日照時間が極端に短い。
4. 太平洋側から吹き込む暖かくて湿った空気の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖であり、1月の平均気温が氷点下になることはほとんどない。

1. 電子部品は重量があり、容積も大きい ため、鉄道や船舶による大量輸送 を前提とした大規模な物流拠点が 必要だから。	2. 電子部品は小型で軽量なため、高 速道路を利用したトラック輸送に適 しており、付加価値が高いため輸送 費の負担を抑えられるから。	3. 原料となる鉄鋼などの重い資材を 高速道路で海外から直接輸入し、生 産コストを大幅に削減する必要があ るから。	4. 内陸部は沿岸部に比べて地価が極 めて高く、ブランド力を高めるため にあって高級な立地条件を選んでいるから。
--	---	--	--

1. 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。
2. 岩手県は、広大な土地を活かした畜産業が極めて盛んであり、県全体の農業産出額の7割以上を畜産が占めている。
3. 青森県は東北地方で最も総面積が大きい。山地が多いにもかかわらず耕地面積の割合も東北6県で最大である。
4. 秋田県と山形県は東北を代表する米どころであり、この2県だけで東北地方全体の米の産出額の半分以上を占めている。

1. 樹齢1000年を超える巨大な屋久杉が自生する、独特の生態系を持っているため
2. 江戸時代から続く伝統的な林業によって、良質なスギの人工林が守られてきたため
3. 人為的な影響をほとんど受けていない、広大なブナの原生林が維持されているため
4. 標高3000メートルを超える山々が連なり、氷河の侵食による地形が発達しているため

1. 山形県 2. 秋田県 3. 福島県 4. 宮城県

1. 北上川 2. 阿武隈川 3. 最上川 4. 米代川

1. 筑後川 2. 信濃川 3. 石狩川 4. 北上川

答え合わせ・解説

問1	答え 4 青森県	青森県は、全国一の収穫量を誇るリンゴ栽培などの農業に加え、八戸港などの有力な漁港を拠点とした水産業が非常に盛んな地域です。そのため、製造業が盛んな静岡県や、人口規模が大きく大規模農業が主体の北海道とは異なる独自の数値（人口約130万人規模、高い第1次産業比率）を示します。内陸県である長野県は漁業生産量が極めて少ないため、この指標からは除外されます。
問2	答え 4 気温が上がらず日照時間も不足するため、稲などの作物の生育が悪くなる冷害が発生する。	やませは冷たく湿った空気を運んでくるため、濃い霧が発生しやすく、日照不足と低温をもたらします。特に開花期や結実期の稲にとって、この低温は致命的なダメージとなり、収穫量が著しく減少する「冷害」を引き起こします。かつて東北地方では、このやませによる飢饉が何度も発生しました。
問3	答え 2 夏の低温被害である冷害を避けるため、品種改良によって耐冷性と食味を両立させた銘柄米の生産に力を入れている。	東北地方は日本の米蔵と呼ばれますが、常に冷害のリスクと隣り合わせでした。技術革新により、寒さに強いという特性だけでなく、消費者ニーズに応える「美味しいお米」としてのブランド（銘柄米）を確立することで、冷害への耐性と収益性の確保を同時に実現しています。二毛作は一般に冬が温暖な西日本で行われることが多く、東北地方では一毛作が中心です。
問4	答え 2 産業構造の変化や都市機能の更新に伴い、工場の跡地が別の用途へと転換された。	時代が異なる地形図を比較することで、特定の土地における役割の変化を捉えることができます。例えば、仙台市の港湾付近のように、かつての工場跡地に新たな建築物が建てられている場合、それは産業の移転や老朽化、あるいはより効率的な土地の高度利用を目指す都市再開発が行われたことを示しています。このように、地形図から読み取れる情報の変化は、その地域の社会経済的な動向を反映しています。
問5	答え 3 宮城県仙台市	宮城県の県庁所在地である仙台市は、人口が100万人を超える政令指定都市です。東北地方の地理的中心に近い福島県と岩手県の間に位置しており、交通網の拠点としても重要な役割を担っています。他の中核的な都市と混同されやすいですが、東北地方に属するのは宮城県の仙台市です。
問6	答え 2 やませ	オホーツク海で発達した高気圧から流れ込むこの風は、低温で湿っているのが特徴です。主に東北地方の太平洋側に影響を及ぼし、夏場の気温が上がらない原因となります。これに対して「からっ風」は冬に山を越えて吹く乾燥した風を指します。
問7	答え 1 冬の季節風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、それが奥羽山脈などの山地にぶつかることで雪を降らせるため、1月の平均気温が氷点下になるなど寒さが厳しい。	東北地方の日本海側や青森県では、冬にシベリア大陸から吹き出す湿った冬の季節風が奥羽山脈に遮られることで、世界でも有数の豪雪地帯となります。また、緯度が高いことや山地の影響により、1月の平均気温が0度を下回る氷点下（0度未満）の厳しい寒さになることが特徴です。一方、1月の降水量が少なくなるのは山脈の風下にあたる太平洋側の特徴であり、8月の平均気温が低くなるのは「やませ」の影響を受ける太平洋側の特徴です。
問8	答え 2 電子部品は小型で軽量なため、高速道路を利用したトラック輸送に適しており、付加価値が高いため輸送費の負担を抑えられるから。	山形県では、東北自動車道や山形自動車道などの高速道路網が整備されたことで、内陸部への工業立地が加速しました。電子部品などの製品は、製品そのものが軽量で高価（高付加価値）であるため、重化学工業のように港湾を利用した大規模な原材料輸送を必要としません。そのため、交通の利便性が高い高速道路沿いの工業団地などに工場が進出する傾向があります。
問9	答え 1 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。	土地利用の状況を示す指標として「総面積に対する耕地面積の割合」があります。宮城県は仙台平野という米づくりに適した平野部を持つため、この割合が約17.2%となっており、面積の大きい青森県（約15.5%）よりも高い比率で土地が耕作に利用されています。岩手県の畜産や秋田・山形の米の生産割合については、統計上そこまで極端な集中（7割超や2県で過半数など）は見られません。
問10	答え 3 人為的な影響をほとんど受けていない、広大なブナの原生林が維持されているため	白神山地は、氷河期以降に東アジアで見られたブナ林の姿を今に伝える貴重な地域です。スギなどの人工林とは異なり、多様な動植物が共生する豊かな生態系が保たれている点が、国際的に重要な価値を持つと認められました。
問11	答え 4 宮城県	東北地方において政令指定都市である仙台市を擁する宮城県は、地域内で最大の人口規模を持っています。農業面では仙台平野などの平野部を中心に稲作が広く行われているため、農業産出額に占める米の割合が非常に高く、福島県や山形県と比較して果実の割合が低いことが統計上の大きな特徴です。
問12	答え 1 北上川	この河川は岩手県から宮城県にかけて流れる、東北地方で最も長く、流域面積も最大の河川です。山形県を流れ日本海に注ぐ最上川や、福島県から宮城県を流れる阿武隈川と混同されやすいため、源流のある県や注ぐ海の違いを整理しておくことが重要です。
問13	答え 4 北上川	北緯40度線は、日本の東北地方（秋田県や岩手県）を横断しています。この緯線上をアジア大陸から東へ移動すると、中国の黄河を越えた次に日本列島の北上川と交差します。石狩川は北海道、信濃川は中部地方、筑後川は九州地方を流れる河川であり、北緯40度線とは交差しません。